

## 若年性 (閉経前) 骨粗鬆症

### CASE STUDY 症例から学ぶ

#### 太田博明

国際医療福祉大学臨床医学研究センター 教授／  
山王メディカルセンター・女性医療センター長

#### 解説

原発性骨粗鬆症の有病者および骨折者の約80%は女性で、このほとんどが50歳以降の閉経後骨粗鬆症である。50歳以前のそれは早発閉経者や若年成人平均値(young adult mean; YAM)の低い、遺伝的影響の強い特発性骨粗鬆症である。この特発性骨粗鬆症の代表例が妊娠後期あるいは産褥数カ月以内に腰背部痛を訴え、胸腰椎のX線撮影で圧迫骨折が判明する、1955年Nordinらによって報告<sup>1)</sup>された妊娠後骨粗鬆症である。しかし、新鮮骨折はX線写真では把握できないので、MRI撮影が有用である。

若年者の骨粗鬆症はエストロゲンの恩恵を受けることができない両側の卵巣摘出者と早発閉経者がほとんどである。40歳未満であっても卵巣機能が低下し、無月経となる場合があり、これを早発卵巣不全(premature ovarian failure; POF)<sup>2)</sup>と称する。POFは40歳未満で卵巣内の卵胞がほとんど消失し、自然閉経を迎えた「早発閉経」と卵巣内にまだ卵胞が存在するにもかかわらず、脳下垂体前葉性腺刺激ホルモン(ゴナドトロピン)に対する反応が低下し、無排卵・無月経となる「ゴナドトロピン抵抗性卵巣症候群」の2つがある。POFは40歳未満の女性の1%、無月経患者の5~10%にみられる。POFを発症する要因は遺伝性、自己免疫疾患、医原性、環境などが考えられているが、多くの場合、原因不明とされている。

今回の症例は妊娠・分娩とは無関係で、月経も正順である。閉経前にもかかわらず、骨粗鬆症に罹患した若年性(閉経前)骨粗鬆症例を呈示する。このような症例の背景には遺伝的な要因に加え、思春期の骨発育スパート時に骨密度を十分に獲得できず、最大骨量が低値であることに起因すると思われる。

最近、若年女性のやせ願望による、低栄養のためカルシウムとビタミンD摂取不足に加え、美白願望による紫外線シールドの徹底にて皮膚でのビタミンD産生不足から、2次性副甲状腺機能亢進症となり、低骨密度を呈する例の増加が危惧されている。本症例の発端も遺伝的背景に加え、このような若年女性の願望と無関係ではないかもしれない。

#### 問診

骨粗鬆症は遺伝的背景に環境要因としてのエストロゲンの低下、加齢、生活習慣など多因子が加わり、発症する疾患である。したがって、家族歴、生活歴、